

令和3年度 重点研究の総合評価（中間・事後）

■重点研究 中間評価（継続）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
パイプハウスにおける環境および養分制御による省力多収技術の開発							
○道南農業試験場、 花・野菜技術センター、 上川農業試験場、 北方建築総合研究所 (R2-R4)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部・内部環境や作物のモニタリングとそれに基づく制御（内部環境制御・養分制御）という流れを明確にした成果を意識すること 環境制御技術については、トマト以外の作物への適用を考慮するとともに農家への迅速な普及を目指して、費用対効果を意識して試験を進めること 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部・内部環境や作物のモニタリングとそれに基づく制御（内部環境制御・養分制御）の流れを明確にした成果を意識すること 環境制御技術については、トマト以外の作物への適用を考慮するとともに農家への迅速な普及を目指して、費用対効果を意識して試験を進めること
多段式育成手法を活用した道産エゾバフウニの効率的な種苗生産体系の開発							
○函館水産試験場 (R2-R4)	a	a	b	A	<ul style="list-style-type: none"> 重要な要素である換水率と飼育密度について、信頼性・再現性が高いデータを取得すること 研究目的である「生産者の増加」を達成するため、コスト・システムの耐久性等を意識して、社会実装につなげること 	A	<ul style="list-style-type: none"> 重要な要素である換水率と飼育密度について、信頼性・再現性が高いデータを取得すること 研究目的である「生産者の増加」を達成するため、コスト・システムの耐久性等を意識して、社会実装につなげること
クリーンラーチ挿し木苗の得苗率を向上させる育苗管理技術の開発							
○林業試験場、 北方建築総合研究所 (R2-R4)	a	a	b	A	<ul style="list-style-type: none"> 成果の水平展開を想定し、試験地以外、試験年次以外での適用を意識して一般化に努めること 	A	<ul style="list-style-type: none"> 成果の水平展開を想定し、試験地以外、試験年次以外での適用を意識して一般化を進めること
木質粗飼料を用いた乾乳牛の過肥対策とその実証							
○林産試験場、 酪農試験場 (R2-R4)	a	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 過肥対策と並行して、牛乳の生産量・成分・食味・牛の体調を考慮して試験を進めること 社会実装を意識して、実証実験と事業性評価を実施すること 想定される各種原材料に対応した製造条件を検討すること 	B	<ul style="list-style-type: none"> 過肥対策と並行して、牛乳の生産量・成分・食味・牛の体調を考慮して試験を進めること 社会実装を意識して、実証実験と事業性評価を実施すること 想定される各種原材料に対応した製造条件を検討すること

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
A M技術を用いた高性能鋳ぐるみ部品製作法の開発							
○工業試験場 (R2-R4)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 現状の達成状況と目標とする航空宇宙分野で活用される水準には隔たりがあり、さらに検討を進めること 考案した設計法による形状が最適であることの証明、2種の異なる材料を一体化した材料の強度の調査方法をさらに検討すること 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現状の達成状況と、目標とする航空宇宙分野で活用される水準には隔たりがあるため、さらに検討を進めること 考案した設計法による形状が最適であることの証明、2種の異なる材料を一体化した材料の強度の調査方法をさらに検討すること
AIによる自律化を目指したハウス栽培管理作業向けフィールドロボットの開発							
○工業試験場 (R2-R4)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装を見据えて、コスト・作業速度等の目標を明確にして試験を遂行すること 様々な条件のイチゴ圃場および他作物への展開を考慮すること 今回開発する遠隔操作ロボットを、作業全体を含めたより実用的な自律作業ロボットの開発につなげること 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装を見据えて、コスト・作業速度等の目標を明確にして試験を遂行すること 様々な条件のイチゴ圃場および他作物への展開を考慮すること 今回開発する遠隔操作ロボットを、作業全体の効率化に寄与する自律作業ロボットの開発につなげること
中小型漁船で漁獲された道産マイワシの消費拡大のための高鮮度保持技術の開発							
○釧路水産試験場、ものづくり支援センター (R2-R4)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 鮮度管理の指標と評価について、広く検討すること 研究対象が低価格のマイワシであることを十分に考慮して、応用・活用しやすい鮮度保持技術の開発を行うこと 	B	<ul style="list-style-type: none"> 鮮度管理の指標と評価について、広く検討すること 研究対象が低価格のマイワシであることを十分に考慮して、応用・活用しやすい鮮度保持技術の開発を行うこと
豪雨による緩斜面災害を軽減するための研究—寒冷地に特有な斜面堆積物の判定手法の開発—							
○エネルギー・環境・地質研究所 (R2-R4)	b	b	b	B	<ul style="list-style-type: none"> 作成するマニュアルが広く緩斜面災害の軽減に活用されるよう、精度・利便性を高めること 判定手法の妥当性評価手法を明確にすること 	B	<ul style="list-style-type: none"> 作成するマニュアルが緩斜面災害の軽減に広く活用されるよう、精度・利便性を高めること 判定手法の妥当性評価手法を明確にすること

■重点研究 事後評価（R2年度終了）

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	意見	評価
道東サケの漁獲回復を実現する「天然潟湖」を活用した新たなサケ放流体系の確立							
○さけます内水産試験場 エネルギー・環境・地質 研究所 (H29-R2)	a	b	a	A	新たなサケ放流体系を確立し、漁獲回復への貢献が期待される成果である。モニタリングを継続し、漁獲回復効果を明らかにするとともに、適切な潟湖の選択と放流スケジュール決定法の最適化を進め、かつ自然環境への影響に配慮しながら普及を図ること	A	モニタリングを継続し、漁獲回復効果を明らかにするとともに、適切な潟湖の選択と放流スケジュール決定法の最適化を進め、かつ自然環境への影響に配慮しながら普及を進めること
カラムツ・トドマツ人工林における風倒害リスク管理技術の構築							
○林業試験場 林産試験場 (H30-R2)	a	b	b	B	地形的要因、樹木の密度、樹木の種類や年齢などを考慮して、今後、他の地域への展開についても視野に入れ、管理指針の改良を進めること	B	地形的要因、樹木の密度、樹木の種類や年齢などを考慮して、今後、他の地域への展開についても視野に入れ、管理指針の改良を進めること
レーザ加工を利用した自動車部品用金型の長寿命化技術の開発							
○工業試験場 (H30-R2)	a	b	b	B	レーザによる改質技術を開発し、金型の長寿命化条件を明らかにした。関連企業と連携して、技術移転に努めること	B	関連企業と連携して、技術移転を進めること
道産りんごを活用したシードル製造技術の確立と商品化に向けた実証							
○中央農業試験場 食品加工研究センター (H30-R2)	b	b	b	B	嗜好品であるため評価方法が複雑なシードルについて、品質評価基準を明らかにするとともに貯蔵の影響を評価し、実規模試験および企業への技術移転を進めること	B	嗜好品であるため評価方法が複雑なシードルについて、品質評価基準を明らかにするとともに貯蔵の影響を評価し、実規模試験および企業への技術移転を進めること
日本海産ホタテガイの韓国向け活貝輸送技術の開発							
○中央水産試験場 食品加工研究センター (H30-R2)	a	b	a	A	日本海産活貝の輸出技術を開発した。北海道の水産資源の市場開拓に寄与する成果であるため実証試験を行い、積極的な普及を図ること	A	実証試験を行い、積極的に普及を進めること
道産ブリの加工利用を促進させる高次加工品製造技術の開発							
○食品加工研究センター 網走水産試験場 (H30-R2)	a	a	a	A	北海道での認知・利用度が低いブリを原料とした複数の加工品の製造技術を開発し、協力企業による実証試験を実施した。水産加工業の発展に寄与する成果であるため、道産ブリ加工品の認知度向上を図りながら、積極的な普及を行うこと	A	道産ブリ加工品の認知度向上を図りながら、積極的に普及を進めること

つづき

課題名	担当機関 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
		研究の進捗	目標達成見込	活用の可能性	評価	評価	意見
牧草被害低減と利用率向上に向けたエゾシカ捕獲技術の確立							
○エネルギー・環境・地質 研究所 林業試験場 工業試験場 (H30-R2)	a	b	b	B	安価で効率的なシカ捕獲技術を確立した。捕獲したシカの食用利用の向上を図りながら普及に努めること	B	捕獲したシカの食用利用の向上を図りながら普及を進めること
木質バイオマスエネルギーの高性能な供給・利用システムの開発							
○北方建築総合研究所 林産試験場 工業試験場 エネルギー・環境・地質 研究所 (H30-R2)	b	b	b	B	木質バイオマスの乾燥技術と熱搬送・利用方法についてフィールド検証を行った。木質バイオマス資源量、気候条件および熱需要パターンの影響を考慮しながら、社会実装を進めること	B	木質バイオマス資源量、気候条件および熱需要パターンの影響を考慮しながら、社会実装を進めること